

第12回 九州山口薬学会 ファーマシューティカルケアシンポジウム

ランチオンセミナー 2

病院経営を意識した 薬剤選択について

日時

2022年2月5日(土)

11:50~12:50

会場

第2会場(市民ホール)

〒890-0062

鹿児島県鹿児島市与次郎二丁目3番1号
川商ホール(鹿児島市民文化ホール)

座長

島ノ江 千里 先生

佐賀大学医学部附属病院 教授・薬剤部長

演者

池田 龍二 先生

宮崎大学医学部附属病院 教授・薬剤部長

共催：第12回 九州山口薬学会 ファーマシューティカルケアシンポジウム
日医工株式会社

<http://www.congre.co.jp/pcs2022/>

ランチョンセミナー 2

病院経営を意識した 薬剤選択について

宮崎大学医学部附属病院 教授・薬剤部長

池田 龍二 先生

近年、開発される医薬品は高額であることが多く、特にバイオ医薬品は医療費に与える影響が大きい。この医療経済的な課題に対し、臨床および物流データを基盤とした医薬品の適正使用や費用対効果に関する調査を行うこと、調査結果を基に臨床や経営に貢献することは薬剤師の役割の1つである。また、今後、医療の高度化・複雑化、高額医薬品の増加、少子高齢化が進み、益々の医療費の増加が予想され、医療費抑制(または適正化)への取り組みは避けられない。厚生労働省は、「骨太方針2021」において、後発医薬品の品質及び安定供給の信頼性の確保、新目標についての検証等、後発医薬品の更なる使用促進を図っており、製造管理体制強化や製造所への監督の厳格化、市場流通品の品質確認検査などの取組を進めるとともに、後発医薬品の数量シェアを、2023年度末までに全ての都道府県で80%以上とすることを目標としている。

また、「医薬品産業ビジョン2021」では、バイオシミラーの特性を踏まえた新たな目標の設定として、収載されたバイオシミラーの成分の全量が当該バイオシミラー収載時点の先行バイオ医薬品の価格に基づき取引されるとした場合の取引額から、実際の先行品とバイオシミラーの取引額の合計額との差(取引額は薬価ベースで算出)を指標とした目標が提示されている。

バイオシミラーの採用や運用に関しては、先行販売したバイオ医薬品とバイオシミラーとで適応症が異なる医薬品があること、また、実際に先行バイオ医薬品からバイオシミラーへの完全切り替えを実施しても、同系統の先行バイオ医薬品の使用が増加する場合があることなど、課題も多い。

本セミナーでは、当院における後発医薬品およびバイオシミラー導入への取り組み、経済効果、問題点について紹介し議論の場とさせていただきたい。